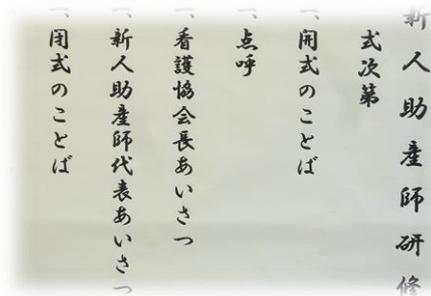


山口県助産師職能委員会 研修報告



平成 29 年 7 月 8 日（土）、山口県看護研修会館において、新人助産師研修の開講式が開催されました。山下常務理事より、「山口県は高齢化率が 4 位です。低出生体重児の増加、妊婦の高齢化が進みハイリスクの妊婦が増えてきています。助産の力をつけ、社会の為に役立てていく任務があると思います。身につけてきた知識と、先輩たちの知恵を借りて、知恵と知識が一緒になった時に、素晴らしい実践力が出てくると思います。健康に気を付け、全過程を終了されることを祈願しています。」と温かいお言葉を頂きました。



今年の新人助産師研修参加者は、20 名です。

新人助産師代表として山口県立総合医療センターの河上真理子さんより、「6 回のプログラムを通して助産師実践能力の習得を図り、目標とする助産師に向けて頑張りたいと思います。また、新人助産師の集まる貴重な機会となるので、情報交換やコミュニケーションを通して、助産師同士のつながりも大切にし、充実した研修になるように取り組んでいきたいと思っています。」と挨拶がありました。職能委員一同、皆様の 1 年後の成長された姿を楽しみにしています。



その後に、第 1 回新人助産師研修・公開講座が開催されました。午前中は、山口大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター診療助教 松隈知恵先生に「新生児のフィジカルアセスメント」、午後は、山口大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 三木砂織先生に「ハイリスク新生児を持つ家族へのケア」の講義をしていただきました。新人助産師 20 名、公開講座 10 名の参加がありました。

午前の講義では、新生児フィジカルアセスメントの特殊性、
「言葉で自分の異常を伝えることが出来ない（新生児に対し常に関心を払い変化を見逃さない）」「赤ちゃんのそばにいて視る聴く触る」「母体情報（母体合併症、妊娠分娩経過）がカギ」「出生後に起こりやすい疾患や病態を理解する」という事について再認識し、理解を深めることが出来ました。また、実際に治療を行っている場面の動画はとても感動的でした。



自分で症状を訴えることが出来ない新生児の異常を早期に発見するために、これからも自己研鑽していかねばならないと痛感しました。

午後の講義では、「NICUに入院される母親の心理過程」「NICUの家族支援の実際」について学ぶことが出来ました。こころのケアの基本については、様々なケースについて具体的に説明して頂き大変勉強になりました。ハイリスク新生児を持つ母親・家族に対し、どのように接して行ったら良いか迷うことがありましたが、アイコンタクト、触れ合い、声かけにより信頼関係を築き、母親の心が少しでも軽くなるような看護を志していきたいと思えます。



講義終了後、情報交換会として、他己紹介・風船割り競争を行い親睦を深めました。優勝チームには、細やかですが商品がありました。1回目の研修会で緊張・疲労もあったと思いますが、最後はリフレッシュ出来たのではないのでしょうか。

